

「夫婦ゲンカはイヌも食わない」はウソ・ホント？

そもそも「夫婦ゲンカはイヌも食わない」ということわざはどういうことを意味しているか？ それは「夫婦ゲンカはたいていつまらないことが原因で、しかも二人はすぐに仲直りしてしまう。だから、わざわざ他人が仲裁に入ろうとするまでもない」というたとえなんだそうな。派手にやり合っているので「まあまあ」と割って入ると、とぼっちりがこちらにかかるだけ。

当の本人たちは、ほんの1時間後にはケロッとして「今日の晩ごはん、何にします？」なんてことになる。ああ、くだらない。心配するだけバカを見る。だからイヌだって夫婦ゲンカは相手にせずには放っておくという意味らしい。

だが、実際に飼い主夫婦が夫婦ゲンカを始めた場合、ことわざどおりに無関心を決め込むイヌは、まずいない。なんらかの反応を示すのがふつうだという。そういう意味では、夫婦ゲンカがくだらないという方はともかくとして、「イヌも食わない」の部分は当たっていないらしい。

イヌは群れをつくって生活する動物だけに、群れのなかの関係には敏感である。とくに群れのリーダーとその配偶者である飼い主夫婦の行動にはいつも注目しているのだ。

獣医師の小方宗次氏の著書『「犬は三日飼えば三年恩を忘れない」は本

とう けんきゅうしょ ふうふ はんのう おお
当か』(PHP研究所)によれば、夫婦ゲンカのときのイヌの反応は大きく

わ よつ
分けて四つだという。

まず、どうしたらよいかわからずに、周辺しゅうへんでうろうろしているものの、

せっきよくてき かいにゆう
積極的な介入をしないタイプ。

じぶん かわい ほう ふり みかた
自分をより可愛がっている方が不利になると、そちらに味方するイヌもい

つねひごろ かんけい と いっしゆん あいて みかた おれ
る。常日頃からのイヌとの関係が問われる一瞬だ。相手に味方されて「俺

ほう かわい う ひと
の方が可愛がっているのに」とショックを受ける人もいるかもしれない。

はんたい か ほう かたん て だ
反対にケンカに勝っている方に加担するイヌもいる。まずは手を出さず

ゆうり みきわ さんせん か ほう み
とどちらが有利かを見極めてから、おもむろに参戦し、勝っている方に味

かた ひきょう こうい
方するのだ。これはべつに卑怯な行為ではない。そもそもイヌのケンカ

む じょれつかくにん お つよ ほう じょれつ うえ
は、群れのなかでの序列確認のために起こる。ケンカに強い方が序列が上

みと したが しぜん ほう む
と認めて従うのは、イヌにとってきわめて自然なことなのだ。その方が群

じょれつ あんてい
れの序列が安定するからだ。

みかた ほ た
どちらに味方するわけでもなく、うるさく吠え立て、まるでケンカをあお

み にんげん み
っているように見えるイヌもいる。これは人間からそう見えるというだけ

たん こうふん
で、イヌがどういふつもりなのかはよくわからない。単に興奮しているだ

ききかん さわ
けなのかもしれないし、なんらかの危機感をもって騒いでいるのかもしれない

い。

[『別冊宝島』416号(宝島社)より]